

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 20日

事業所名

スカイ2

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	15			基準を満たすだけでなく、スペースの有効活用を意識して支援をしている。
	2	職員の配置数は適切である	15			ご利用者の障がい特性に合わせて職員を1対1対応等で配置していく事も継続していきたい。
	3	事業所の設備等は、子ども達が動きやすく活動しやすいように整っているか	15			机や椅子を移動させたりTEACCHを取り入れる等、環境設定を工夫している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	15			毎日のミーティング等を通して実施している OOCAの取り組みをもっと取り入れていきたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	15			保護者様にしっかりとアンケートを実施し、業務や療育内容の改善に努めている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	15			ホームページに掲載したり、月に1回、おたよりを配布して情報を公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	15			
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	15			講師の先生を招いたりし、研修会を定期的に行い、質の向上に努めている。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	15			アセスメントやニーズ・課題を元にしなければ計画は出来ないという認識があり、連絡帳等でもやりとりを行ってそれらと取り入れて計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	15			業務日誌・連絡帳等を用いてアセスメントをしっかり取っている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	15			児童発達管理責任者を元に意見を出し合い、個々に必要なスキルの獲得に決めている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	15			日々、ミーティングの中で話し合い、ご本人様に必要な課題を明確にして獲得出来るように工夫している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	15			それぞれのプログラムを分けて組み、中身を変えて行っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	15			ご本人様に必要な課題が異なるので、集団・個別を組み合わせたりしつつ成長に繋がるように作成を行っている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	15			必ず時間を作り、ミーティングを実施している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	15			支援後ではなく、翌日のミーティングの際に振り返りや打ち合わせを行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	15			業務日誌をしっかり付けるようにし、それを基に支援を継続・改善している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	15			定期的にモニタリングを実施している。その上で必要であれば個別支援計画を見直している。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	15			ガイドラインを基本としながら、事業所・ご利用者の特性と合わせて支援計画を立て、支援している。	

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	15			児童発達管理責任者が参加する等している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	15			その都度、送迎時に情報の共有をしたり、行事計画の紙を預かったりし、連携を取っている。何かあった際には、保護者様にもご連絡をすぐ取るようにしている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	13	2		現在、該当時はおらず
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	13	2		各園・事業所と連携を取り、意見や情報を聞き、共有するようにしている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	13	2		必要な内容のみ情報共有をしている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	13	2		日々、真摯に取り組む中で専門機関との連携の重要性を感じており、不可欠になっている。情報や助言を多く頂き、実行に移している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		15		現在は実施されていないが、今後機会を設けるように検討している。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	13	2		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	15			連絡帳をしっかりと記入し、やり取りを行っている。
保護者 への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	8	7		来所して頂き、お話をしたり、具体的な支援方法を口頭や連絡帳にてお伝えしたりしている。必要な際には相談支援員や市の専門機関に相談をしている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	13	2		実施している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	7		時間を確保し、必要な支援・対応出来る支援を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		15		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	15			必須事項であり、早急に対応をしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	13	2		毎月、おたより(スカイ2だより)を配布したり、行事案内をご利用者様全員に配布する等している。
	35	個人情報に十分注意している	15			昨今、重要事項であり徹底している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	15			言葉以外での伝達方法なども取り入れて対応している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		15		現在は実施されていないが、今後機会を設けるように検討している。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	15		保護者様には契約時にしっかりご説明をさせて頂いている。事業所内でも徹底し、特に送迎時にはマニュアルを追加する等している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	15		定期的を実施し、非常時に備えている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	15		事業所内で2か月に1回は実行している。年2回は外部より講師を招いて研修会も実施。質疑応答も取り入れている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	15		契約時に保護者様にご説明を詳しくさせて頂き、個別支援計画書にも記載あり。「やむを得ない場合」については、職員の判断も難しい事から、理事長への報告やロールプレイングを取り入れた研修会等も行っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	15		保護者より医師からの診断書等を預かる等している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	15		些細な事でも詳細に記録し、回覧を徹底して周知している。その後、会議でも話し合う場を設けている。